京都版ミニ・ミュンヘンの概要について

（1）ミニ・ミュンヘンとは

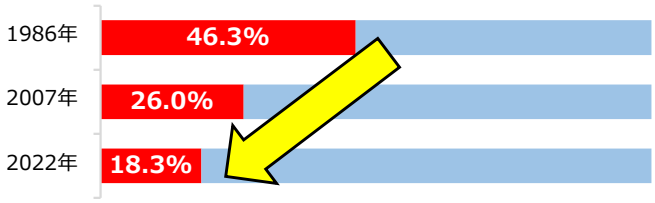
・**ドイツのミュンヘン市**で40年以上続く、**子どもだけで運営する小さな仮想のまちづくりの取組。**
・夏休みの3週間、7歳～15歳までの子どもが参加。
・仕事と学習を経て市民権を得た後は、**自由に好きな仕事**をし「ミミュ」という**独自通貨を稼ぐ。**
・花屋、新聞記者、教員、デザイナー、コック、市長などたくさんの仕事があり、子どもは**「遊び」「働き」ながら、まちを運営し、社会のつながりを学ぶ。**

（2）「京都版ミニ・ミュンヘン」がめざすもの

●現状分析●

18歳以下の子どもがいる世帯の割合は、
1986年：約５割⇒**2022年：約２割まで減少**。

【18歳以下の子どもがいる世帯の割合の推移（全国）】



（出典）厚生労働省「国民生活基礎調査」

「子どもがいることが当たり前」の社会ではなくなったことで、「子どもに対して寛容でない風土」が形成されている可能性。

「子どもを持つ前」と「子どもを持った後」で「子育てに対するイメージ」に**大きなギャップが発生**。

【中高生の子育てへのイメージ】

① **大変そう：78%**
② **難しそう：62%**
③ **疲れそう：57%**
④ **楽しそう：56%**
⑤ **人生が充実しそう：38%**

（出典）京都府調査

【子育てが「楽しい時の方が多い」と思う親の割合】

日本	フランス	スウェーデン
79%	86%	91%

（出典）内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」

結婚や子育てに対する**ネガティブなイメージ**の広がりにより、**必要以上に後ろ向き**になってしまっている可能性。

●実施目的●

これから子育てをする次世代の若者と子どもとの交流機会を創出

・子どもの笑顔や頑張る子どもの様子（“ええ顔”）が大人や若者の目に触れたり、大人の世界に子どもが自然に入っていく取組を実施することで、**「地域の中に子どもがいることが当たり前」という意識をつくる**
・子どもの「まちづくり」への関心を高め、地域への更なる愛着心を育む

●京都版ミニ・ミュンヘンの流れ●

５回程度のワークショップ（子ども×若者）

・ミニミュンヘンとは
・「まちづくり」について学ぼう
→
・通貨はどうする？
・まちをつくるにはどんなルールが必要？
→
・実際にまちに必要なもの、仕事に必要なものをつくろう
→
・市長、副市長を選挙で決めよう
・当日の受け入れ準備

当日

①市民登録　まちに到着したら市民登録をする。
②仕事を探す　ハローワークで仕事を探そう！（例：警察官、アイス屋さん、雑貨屋さん等）
③通貨を稼ぐ　好きな仕事を見つけて働くと独自の通貨をもらえる。
④社会の仕組みを学ぶ　仕事を通じて、仕事とまちのつながりや、社会の仕組みを学ぶ。
⑤まちを運営する　まちは子どもたちから選ばれた市長等により運営される。